

やまなし

## 医療最前線

県立中央病院から

《 44 》

がん治療の三本柱の一つである放射線治療は、今や痛みを緩和するためではなく、早期がんを根治し、形態や機能を温存するための治療として確立されてきている。山梨県内で最も症例数が多い県立中央病院は、最新装置の導入に向けてスタッフの育成にも力を注ぐ。

放射線治療科副科長の萬利乃寛医師は「放射線治療は日進月歩。機械の進歩が著しく、正常組織へのダメージを減らし、患部に正確に集中して照射できるようになっていく」と話す。このため放射線治療によって早期がんの根治も可能という。

同病院の放射線治療で最も症例



萬利乃 寛  
放射線治療科  
副科長

## 正確に照射、早期がん根治も

数が多い乳がんでは、手術と放射線治療をセットで行い、乳房の温存を積極的に進める。咽頭がんや喉頭がんでも、術後に声を保てるよう喉の機能温存を目指し、手術・抗がん剤・放射線の三者併用療法を行っている。

一方、県内で放射線治療装置「リニアック」を備えた施設は同病院を含めて4カ所。人口に対して少なく、同病院の症例数は年間500件を超える。萬利乃医師は「患者さんの待ち時間が少ないスピーディーな治療を心掛けている。今後の超高齢化社会では、手術や抗がん剤より体への負担が少ない放射線治療を受ける人はさらに増えるだろう」とみている。

最新の放射線治療には、陽子線や重粒子線を使う治療と、複雑なビームを組み合わせる高精度エックス線治療がある。

需要が高まる中、同病院も2015年度に、高精度エックス線治療が可能な最新装置を導入する予定だ。最新装置は、ピンポイントでの集中照射や照射の強さの調整、患部の位置補整などの機能を搭載する。

「放射線治療は他職種によるチーム医療。主治医を含めた緊密なコミュニケーションが重要」と萬利乃医師。ハード面の強化とともに、装置の品質を管理する専門職や技師、放射線治療に精通した認定看護師の教育を進めたい考えだ。

Ⅱ第2、4木曜日に掲載します

### 県立中央病院の放射線治療症例数

